
2020年12月17日(木) カマス 石倉渡船 船外機ボート
中潮(旧11/3) 満潮08:09(168cm) 干潮13:30(94cm) : 尾鷲
自分:カマス 32cmまで 8尾 アジ 21cmまで 2尾 サバ 26cmまで 3尾
ツレ:カマス 32cmまで 3尾

6時30分 現地着
6時45分 出船
8時09分 満潮(168cm:尾鷲)
13時30分 干潮(94cm:尾鷲)
14時00分 納竿
14時30分 現地出発



【料金】 船外機ボート ¥11,000 保険500円×2人=1,000円 合計12,000円

【餌】 サンマ切り身

- フィッシング遊で販売していなかったのので、スーパーで塩サンマを購入し、切り身にして持参した。
- 切り身は2人で2本分持参したが、足らなかったのので石倉渡船にて購入した。 ¥500×2箱
- 餌を購入し事務所から舟に戻ってみると、舟の上にカラスが一羽いた。
- このカラスが残っていた餌をすべて食べてしまった。餌を二箱買って良かった。
- ところが、午後からは風が強くなり、当たりが減って、餌は1箱しか使わなかった。

【仕掛け】 ジグヘッド5g(シャンクの長いもの)

リーダーの先にフロロ7号30cmをつける。(カマスは歯が鋭いため)

竿:キス竿 小さな当たりを取るために先調子のキス竿を使った。

小アジが餌をついばむ小さな当たりがよく分かった。

このことはたいへん重要である。

カマスはコンコンという当たりがもう少し大きい。

キス竿で十分である。

【様子】

- 晴れ。前半は風少々、後半は強風のち弱風。
- 船長に尋ねたところ、船着き場を右に出て正面の大きく広いところが良いということだったので、そこへ行った。終日、この場所が良かった。少し移動してみたが、他のところでは魚探の反応がなかった。
- 筏につけることが禁止になったので、錨を降ろして釣った。
- 魚探によると、水深15m、底から5mまでに反応が出る。
- 実釣してみると、底から2m~5mが棚であった。
- <船長より>
- 小さな当たりは小アジが餌をついばんでいる当たりである。アジが来るとカマスは寄りつかない。近くでアジ釣りをしている人がいたら、少し離れた方がよい。
- カマスの当たりはこれよりも大きい。3~4回当たりがあると餌はなくなっている。
- アジが寄っているようなら、少し投げて、アジのいないところから棚に餌を届けると良い。
- アジが多いときは難しい。アジがいない方が簡単に釣れる。
- 確かに、カマスの当たりは比較的大きい。小さな当たりが続くときは釣れない。これはアジの当たりであ

る。

○ネットのTVでは、「当たりがあったら聞き合わせをする」とのことだったが、これでは釣れなかった。

○カマスが当たりがあったら、小魚が逃げていくように少しずつ巻いていくと、ゲンと竿先が下がることがあった。

○カワハギのように、‘餌を揺すって焦らせてから止める’では掛からなかった。

○時には突然、一気に竿先が水面に入ることもあった。そんな当たりでも抜けてしまうことがあった。

○ワームで1尾釣った。竿先を少し上げ、上げた分を巻き上げるというワンピッチを行った。上手くできているなと思っていたら、いきなり当たりがあった。それ以降はダメだったので餌釣りに変えた。

○前半、自分はカマスを6尾、ツレは0尾、後半、自分は2尾、ツレは3尾だった。

○一人が釣れているのにもう一人が釣れないというのは、棚が合っていないのだろう。

○アジが釣れたので、アジで飲ませ釣りを行った。一度も当たりはなかった。後半は舟が流されるので止めた。

○後半、風が強くなり、錨をおろしても流されていく。舟が流されると魚探の反応がなくなるので、舟を移動させるという釣りとなった。周りの舟を気にしながらの釣りとなり、釣りにくかった。

○今後は、カマスの当たりがあったら、聞き合わせをする、少しずつ巻いていく、掛かるまで待つということだろうか。